

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0174700864		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	北海道河東郡士幌町字士幌西2線166番地10		
自己評価作成日	2024年2月7日	評価結果市町村受理日	2024年9月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月担当者がその月の生活の様子を写真入りの手紙に書きご家族に送っている。 週に1回入居者から食べたいものの希望を聞き、メニューに反映している。 各個室にトイレ・洗面台がありプライバシーが確保されている。 毎日の食事は職員が手作りをし、お正月にはおせち料理も作っている。 入居者の誕生日には誕生日会を催し、各季節ごとに行事を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、帯広市の北方向にある士幌町の閑静な住宅地に位置しており、平屋建ての別棟の2ユニットのグループホームだったが、改修して、渡り廊下で繋がって往来が便利になった。隣接して、病院や総合福祉センター、特別養護老人ホーム、障がい者総合施設などがあり、当事業所も含めて「福祉村」を構成しており、町民から信頼も厚い。当事業所の1ユニットは、ケアホーム笑顔として、認知症高齢者と障がい者の共同生活の混合型グループホームで、あまり例のない先進的な取り組みの事業所である。法人は、音更町にも2ユニットのグループホームを運営しており、各委員会を設置して職員参加型の運営をしている。ホーム内は中央に広い共用空間の食堂とリビングがあり、利用者は寛いで過ごしている。居室には、トイレと洗面台を設置しておりプライバシーに配慮している。玄関には、内側に風除室を作り、コロナ感染症対策での面会を実施するなど利用者ファーストを実践しており、先進的な認知症高齢者介護の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルーム、玄関、業務に掲示している。業務日誌に記載、スタッフ会議の時もホワイトボードに書き、常に理念に基づいてケアをするように努めている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、会議の際にホワイトボードに記載し確認するなどして共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は、町内の行事に参加したり、買い物へ行き知り合いとふれあう機会があった。行事には地域の方にボランティアとして協力していただいていた。近所の方から野菜を頂いたり、敬老の日やお彼岸にはお赤飯やおはぎを配り交流を深めている。	町内会の行事には参加していないが、町内の夏祭りには行っている。近所から野菜を貰うなど地域との関わりは少しずつ再開している。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練やホームの行事に参加していただき、理解を得られるように努めている。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施(今年度は書面含め)。利用者の現状報告、事故報告、行事報告等委員の方に意見や改善策を書き出して頂き、会議内容を記録しサービスの向上に努めている。	運営推進会議は書面会議を含め定期的に開催し、家族や地域の方、地域包括支援センター担当者や社会福祉協議会担当者などが参加して、情報交換や意見交換をして、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の主催する地域包括会議等に出席。町担当職員と常に連絡を取りより良いケアに努めている。	町主催の地域包括会議等(介護保険など3種類の会議)に参加しており、情報交換や意見交換をして、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていないが、入居者の転倒防止、日中徘徊する入居者の為に、玄関にセンサーを設置し、外に出る時には職員が付き添うケアを行っている。	毎月のスタッフ会議の中で、身体拘束について検討している。また、年1回身体拘束と虐待防止研修会も開催して、虐待防止や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止研修を開き、職員の意識を高めるとともに、日々職員同士声掛け確認を行い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には情報を提供し支援しており、制度を利用されている利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が事前面接や契約時に不安や疑問を十分に説明し、理解、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、入居者代表、家族代表を交えて意見を頂き、反映している。ご家族来訪時、個別に要望を聞いている。	利用者毎の生活状況は、写真付きの手紙を毎月家族へ送付して、生活状況を報告している。家族からの意見や要望は、来訪時や電話にて殆ど聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて意見を反映している。職員間は業務日誌や申し送りノートを活用している。	ユニット会議は毎月行っており、職員面談は随時ユニット長が実施している。職員からの意見や提案はユニット介護で検討し、運営に反映している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力認定評価の実施にて、実績に応じて給与に反映されるなど、各自やりがいを持てるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材開発計画により、自己研鑽費として、各個人に対し、希望する研修、書籍の購入ができスキルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会等参加した際に、同業者と交流する機会があり情報交換をし、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にホームを見学して頂き要望、不安な事などを聞き取り、職員に周知している。安心した生活が送れるよう、入居者の話に耳を傾け関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居受け入れ時、管理者、看護師が電話や事前面接などで、ご家族からよく話を聞き、安心感を持って頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居受け入れ時、管理者が作成した事前面接表、情報提供表をもとに、ケアプランを作成している。職員も情報共有し、今までの生活を維持出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での、仕事などを分担し、助け合いながら生活することで、個々の役割や助け合いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来館された時や電話で利用者の情報を共有したり、できる範囲での役割や関わりをお願いし、支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の負担にならない範囲で、外出や買い物、理美容室など以前の関係が少しでも途切れる事のないように、支援に努めている。	友人や知人の来訪は時々あり、馴染みの関係維持に努めている。理美容室や買い物は、家族や職員が同行して、希望の利用者のみ外出支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等参加して頂きコミュニケーションを取ったり、利用者同士で会話ができる場所や時間を設けたり、家事の手伝いをお願いしながら利用者同士関わりを持ち、楽しく暮らせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、お盆時期にはお墓参りに行ったり、訪問し仏前に手を合わせる等、断ち切らない関係作りを大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話などから希望や意向の把握に努めケアプランを作り、モニタリングをしその人に沿った支援をしている。	意思表示ができる利用者が半分以上で、困難な方は、日常生活の中で思いや意向を把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に本人、家族、利用施設等から詳しい事情を聞き、家族にはセンター方式の記入にもご協力頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや会議などでADL等の状況を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で課題を話し合い、モニタリングを行っている。会議で意見等を話し合い、利用者の状況に沿ったケアプランを作成している。	本人や家族の思いや意見を聞き、主治医や看護師の意見も取り入れ、申し送りノートを活用して、毎月の会議でアセスメントを含め意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。見直しは6ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートの記録および申し送り等で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望した場合は外泊や外出をしている。相談や要望があれば話を聞き、受診対応など必要に応じた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は避難訓練や運営推進会議の実施。ホームの行事にボランティアの方にも参加協力頂いていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は血圧測定などのデータを持参するなど、情報提供している。家族が受診の付き添いをする時は、医師に手紙を書いて情報を提供し家族の安心に繋がるよう努めている。	協力医療機関への受診支援は、看護師又は職員が同行して月1～2回支援している。他科の受診は家族が同行している。事業所の看護師は週1回入居者の健康状態を確認しており、24時間TEL対応の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回入居者の健康状態を診ている。日常の様子、状況を報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。いつでも相談できる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き状態を聞いたり、看護師、ご家族からの情報も得ながら、早期退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の方針の説明を行い、家族に書面にて意向を確認している。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医と本人や家族が話し合い、意向を尊重し事業所として、適切な支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生に備えて、一斉通報システムを導入している。定期的に消防署主催の普通救命救急講座、AED講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をしている。消防署指導のもと、初期消火や日中と夜間想定での避難訓練を実施している。地域の方にも、一斉通報システムに登録していただき、避難訓練にも参加して頂いているが、今年度はコロナ感染拡大防止対策の為、ホーム内で職員と入居者とおこなった。災害対策委員会がある。	避難訓練は消防署の指導の下、年2回定期的に行っている。事業所内に設置している災害対策委員会を中心に計画し、実施している。感染症対策や自然災害対策のBCPも作成しており、それに基づいた実証訓練と見直しは、今後行う予定である。	自然災害対策のBCPは作成しているが、それに基づいた実証訓練を行い、修正等があれば見直しを行う事を期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の身体、精神面、生活歴などを把握し、状況に応じた声掛けや対応を行うように心がけている。プライバシー保護のため、メモ等はシュレッダー処理している。	居室に洗面台とトイレが設置しており、プライバシーに配慮している。コンプライアンス研修を年1回実施し、スピーチロック等の勉強会も行うなどして、人格を尊重した声掛けなどに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立の希望を週に一度聞いている。外出も本人の意向を確認してから行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	担当職員が中心となり24時間支援シートを作成し、本人の思いを反映させ一人一人のペースに合わせた暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各自室に鏡やヘアブラシがあるので自由に身だしなみを整えている。2ヶ月に1回訪問美容を利用している。ご本人愛用のクリーム等がある場合は継続して購入し、使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望を聞き、献立に反映するようにしている。後片付けや買い物も手伝って頂いている。	食事は職員が手作りで、1週間に1度献立を決めている。利用者は、後片付けや買い物も手伝っている。行事食は、デッキでお茶会やたこ焼きパーティー、おせち料理、焼き肉など行い、夏にはスイカ割も行うなど楽しみ食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量、形態、嗜好の好みで提供している。献立は野菜、肉、魚をまんべんなく取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや見守りをしたり、義歯洗浄の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄リズムの把握に努め、日常の仕草や様子からさりげなく声かけ、誘導に心がけている。失禁を減らすためボール運動を取り入れている。	自立した排泄可能な利用者は7割程度だが、排泄チェック表を確認しながら、時間や状況で声掛け誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らないよう、野菜のおかずを多く取り入れ、ヨーグルトやオリゴ糖、起床時に牛乳を提供する等している。下剤の調整は、排便の状況を確認しながらDr.や看護師に相談し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週2回以上入浴を実施しており、一人一人の状態に合わせた温度設定、入浴時間を心がけている。	浴槽はユニットバスで、入浴は週2回以上で、利用者の状況に合わせて、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースには、ソファや膝掛、クッションを用意している。夜間は安眠して頂けるよう静かな環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況については、個々の、ファイルに管理しスタッフが確認出来るようにしている。内容変更時には受診結果表に記載し、注意点について確認合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が高齢の為、出来る事が少なくなっているが、基本情報を基に、縫い物、調理、花壇作り等出来る事を職員と一緒にしたり、コロナ前は外食にも出かけていた。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望や体調に配慮し、散歩やドライブ、日常の買い物に出かけている。近所への散歩、ご家族との外食やお墓参りなど馴染みの場所への外出支援をしているが、今はコロナ感染拡大予防のため行えていない。	日常的に近隣の散歩や外気浴を支援している。紅葉狩りや三国峠など少人数で、車から降りない車内からの見学ドライブをしているが、これからは、通常通りのドライブ見学や外食を行う予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理することが可能な方には小遣い程度ではあるが、ご家族了承のもと自分で現金を持たせている。外出や個人での買い物は個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでも対応出来るようにしている。手紙等は切手購入、投函など支援している。個人で携帯電話を持たれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾り四季の様子がわかるようタペトリ、日常の写真を飾っている。	ユニットで建物は別棟だったが、渡り廊下で往来ができるようになった。ユニットの間にウッドデッキがあり、外気浴や焼き肉に活用している。共用空間は、採光や風通しもよく、温度湿度も管理され、整理整頓されており清潔感がある。室内は一部改修されており、特に玄関ドアの内側に風除室のガラス戸を付け、面会時のコロナ感染症対策に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、デッキと自由に過ごせる共用空間がある。ソファでくつろげるよう膝掛け、クッション等を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたものを持って来て頂くよう伝え、本人の馴染みのあるものを使用することで、居心地よく過ごせるようくふうしている。仏壇を持ってこられた方には仏飯、花などを備えている。	居室には、トイレと洗面台、クローゼットが備え付けている。特にトイレの引き戸は、改修により、介護し易いように引き幅が長く工夫された。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に手作りの表札をつけたり、身体機能の低下に合わせて、手すりを設置したり、居室の模様替え、物干しの高さの調整等、安全で自立した生活が出来るよう工夫している。		